

## ■カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

### サブカテゴリー1 認定こども園として目指していることの実現に向けて一丸となっている

園が目指していること(教育・保育理念、基本方針)を明確化・周知している	B
管理者(認定こども園長・保育園長・幼稚園長)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、こども園をリードしている	A
重要な案件について、管理者は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A

認定こども園は、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づいた幼稚園機能と保育園機能を一本化した新しい形の総合施設です。羽根木こども園は、“心身ともに健康な子どもの幼児教育・保育を目的とし、想像力を養い個性を伸ばし、併せて社会生活の基礎を身につけ、明るく思いやりのある子どもとなること”を柱に置き、保育・教育をすすめています。
園独自のパンフレットに、園として目指していることを明文化しています。また、方針とあわせて「ねらい」や「やくそく」というように、特に大切にしていることを保護者にもわかりやすく表記していますが、タイトル(呼び名)を統一するとさらに理解しやすくなります。理念・方針は、関係者すべての人が共有して理解を深める必要があります。職員全員が再確認し、重要な意思決定や判断に迷ったときに思い起こすことができるしくみがあればなお良いでしょう。
「職員の心得」という独自に作成した手引書があり、重要な案件を検討し、決定する手順を決めています。職員会議は、全体での会議(毎月1回)、保健衛生会議(毎月1回)、学年連絡会議(毎週1回)、行事の検討会議(随時)というように分けて開催し、それぞれの会議の中で確認する内容を決めています。会議で決定したことのうち、重要な事柄については、園だよりや掲示板等で保護者にお伝えをしています。

## ■カテゴリー2 経営における社会的責任

### サブカテゴリー1 社会人・福祉サービス事業者・教育機関として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

社会人・福祉サービス・幼児教育に従事する者として守るべき法(児童福祉法、学校教育法、消防法、学校保健法、労働基準法等)・規範・倫理などを周知している	B
第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A

### サブカテゴリー2 地域の福祉に役立つ取り組みを行なっている

園の機能や幼児教育・福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
地域の関係機関との連携を図っている	A

各種規則の他にも「職員の心得」という手引書や「職員業務分担表」があり、特に重要な内容についてまとめています。この中において、園長(施設長)の職務や担当教諭・保育士等の職員業務を明示しています。諸規則は常に確認できるようにしていますが、福祉サービス・幼児教育に従事する者として常に認識を高く持ち、規範や倫理等とともに定期的に理解度を深める取り組みがあるとなお良いでしょう。
平成19年4月に開園してからまだ1年半強ですが、区役所と協議した上で第三者評価を受審し、情報開示についても前向きに考えています。これからも、透明性を高めるために何をどのように開示するかを検討し、取り組むことにより、さらに信頼性が向上するでしょう。ホームページには、入園案内のような園の概要だけでなく、独自に行っている子育て支援事業等についてもわかりやすく掲載しています。
子育て支援事業としては、一時あずかりの他、0歳～3歳を対象とする園庭開放や2歳～就学前を対象とする育児サークル(製作・リズム遊び・体育遊び等を行う)があります。これらは、幼児教育・福祉の両面で認定こども園として専門性を活かし、積極的に取り組んでいます。この機会を通して子育て相談等も柔軟に行っています。

## ■カテゴリー3 保護者の意向や地域・事業環境の把握と活用及び中長期目標と計画

### サブカテゴリー1 保護者の意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

保護者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(情解決制度を含む)	A
保護者の意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A
地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A

### サブカテゴリー2 こども園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定している

外部環境、内部環境を踏まえて、こども園の中長期計画を作成している	B
----------------------------------	---

苦情解決制度については、玄関に掲示しています。この中で、園以外の相談先として第三者委員を設置し、遠慮なく利用するよう保護者にも告知をしています。また、苦情受付箱は2箇所設置し、利用しやすいようにしています。受け付けた意見や要望などについては、「意見要望等の受付書」に対応記録とあわせて記録しています。この他、「相談内容記録」があり、電話での問い合わせ等に対して園長のコメントも含めてすべて記録しています。
懇談会や登園、お迎えの時等に出された保護者からの意見については、なるべく記録に残し、具体的に対応を検討しています。今まで出された意見のうち、午睡の場所や方法の変更を行う等、優先度が高いものから順次対応を行っています。また、行事や保護者会の日程設定については、現在もなお検討をすすめているものもあります。
子育て支援事業(園庭開放や育児サークル等)を行う中で、子育て真最中の保護者との会話を大切に、意見や要望を取り入れて次の支援内容に生かすよう取り組んでいます。さらに、周辺地域で行っている既存の子育て支援事業をすべて抽出し、当園としてやるべきこと、在園児の対応に支障なくできることを分析して対応を行っています。なお、中長期の計画については職員全員で共有化できるように明文化すると良いでしょう。重要な情報については、改善すべき課題があれば討議を行い、共有化をしています。

## ■カテゴリー4 安全管理

### サブカテゴリー1 子どもの安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

子どもの安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる※事故、感染症の発生時などの対応、防犯・防災等	A
---	---

警察署や消防署と連携し、防犯・防災・火災対策を行っています。昨年は警察の騎馬隊による交通安全教室も実施しました。避難訓練は毎月行い、消防署との連携も定期的に行っています。防災用品については、役所から送付される非常用品と独自に購入したものを加えて備蓄をしています。
IDカードを発行して保護者へ渡し、園内へ入る場合や子どものお迎え時には提示を求めています。このために手間はかかりますが、子どもの安全確保のため、最大限の協力をお願いしています。園のはたらきかけによって、最近になってようやくすべての保護者に理解してもらうことができました。
「感染症対策ガイドライン」という名称のマニュアルがあり、感染症が発生した場合の対応や再発防止策について独自の手順を定めています。この中には、発生した際の告知用掲示物も既に用意しており、滞りなく保護者と連携して対応ができるようになっていきます。この他、「保健業務手順」や「事故防止マニュアル」等があり、予防策についても掲載しています。

## ■ カテゴリー5 職員と組織の能力向上

### サブカテゴリー1 こども園が目指していることを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

園にとって必要な人材構成にしている	A
職員の質の向上に取り組んでいる	B

### サブカテゴリー2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	A
職員一人ひとりのやる気向上に取り組んでいる	B
円滑なコミュニケーションを図り、組織として質の向上に取り組んでいる	A

「職員の心得」という独自に作成した手引書によって職員として求める人材像を明確にしています。職員個々の希望や適性については、園長や主任が面談して把握し、判断をしています。この際に使う資料や面談シート等のツールを再検討し、育成目標や考課に関する共通理解が深まるしくみがあるとなお良いでしょう。

職員が研修に参加しやすいように勤務日程を調整する等の配慮を行っています。研修受講後は報告書を提出し、職員会議などで発表も行っています。なお、研修については柔軟に対応を行っていますが、職員各々の育成(研修)計画を策定するように望みます。このことによってOJT(園内研修)の方法もさらに明確化するでしょう。

全体で行う職員会議や保健衛生会議、学年連絡会議を通して、職員が互いに検討しあう機会やしくみがあります。また、園の教育方針やねらいをもとにして“どんな子どもに育てたいか”を考え、その上で“子ども像”を明確にしています。全体的には様々な取り組みがありますが、職員一人ひとりの取り組みを評価し、課題の発見や目標設定を行う人材育成の工夫があればなお良いでしょう。

## ■ カテゴリー6 サービス提供のプロセス

### サブカテゴリー1 サービス情報の提供

保護者等に対してサービスの情報を提供している	A
------------------------	---

<p>保護者へは、「園だより」「クラスだより」「保健だより」「給食だより」等を発信しています。これらを通して認定こども園を理解していただくように努めています。どの通信もわかりやすい平易な文章になっています。また、「給食だより」は、朝食抜きの家庭や食が乱れている現在、保護者にとって実のある興味深い話題を提供しています。これらの情報のほかに保護者会等でお話しています。</p>
<p>保護者の問い合わせや見学については積極的に受け入れています。保護者の都合に合わせていますが、原則的には土曜日を設定しています。また、週に2回園庭開放を行っています。その日に公開保育を実施しています。そのお知らせは門の前の掲示板にて通知しています。このほか、入園説明会も実施しています。</p>

### サブカテゴリー2 サービス開始・終了時の対応

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	A
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A

<p>入園にあたっては入園説明会を開いて説明したり、入園決定後は保護者会や懇談会で詳しく説明します。その際、「入園のしおり」を使用しますが、しおりはそれぞれ「キンダーコース」と「ナーサリーコース」があります。どちらも認定こども園としての基本情報は同じですが、保育料や夏休み等異なる点もありますので、紛らわしくならないようにしたとのことです。</p>
<p>保育内容については面接時に保護者の同意を得ています。個々のサービス内容については「発育状況調査書」や「保育時間調査書」に記入してもらいチェックしています。また、行事等に写した写真の掲示については、保育室内に掲示することは同意を得ています。</p>
<p>入園直後は子どもたちは不安を感じる人が多いので、ことさら、連絡帳等で詳しく子どもの様子を伝えていきます。また、登園時や降園時に直接保護者と話をするようにして保護者の不安感を払拭するように努めています。子どもが転園したり、やめたりした場合は、手紙を出したり、電話をしたりして、子どもの状況を継続して把握できるようにしています。</p>

### サブカテゴリー3 計画の策定と着実な実行

こども園としての教育課程・保育計画は、理念・基本方針の基づき策定されている	B
子どもの発達や状況に応じた指導計画を作成している	B

<p>教育課程や保育計画に関しては、主として園長や主任が関わり、それを職員に説明し、指導計画以降を担当者が相談しながら作成しています。しかし、全職員が理念や基本方針を踏まえた保育計画を理解したうえでのカリキュラムの整合性にはいたっていないのが実情です。認定こども園がスタートして2年目なので、こども園としての性格づけや幼稚園機能や保育園機能の融合等難題があったので無理だったのではと推測します。カリキュラムの充実はこれからでしょう。</p>	
<p>保育計画と年間指導計画との整合性は見られたのですが、月間指導計画になると、つまり、より具体的になると整合性にやや不備な点が見られます。5領域が中心ですがそれぞれの領域ごとにたてた保育計画や年間指導計画の目標に月々の計画がそうようになっているか点検をしていく必要があります。次年度の計画を立てる際には是非、年齢ごとの発達も加味した整合性のチェックを望みます。</p>	
<p>運動会の実施日、土曜参観、親子プレーデー等、出来るだけ保護者の意向を尊重した行事にしています。しかし、保護者のアンケートを見るかぎりでは、キンダーコースとナーサリーコースとの保護者の意識のずれはまだ大きく、どちらの意向を尊重してもどちらかが不満を持つといった図式を感じます。認定こども園の特色を最大限に生かすためには保護者の協力や理解が不可欠です。何とかして最大公約数を模索する取り組みを継続していくことを望みます。</p>	

### サブカテゴリー4 個別状況に応じた計画策定・記録

必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	A
必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している	A
必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	A
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している	A

<p>児童票のなかに、生活状況表、健康カード、保育経過記録、発達記録等があり、一人ひとりの子どもの状態を把握しています。そのうえで、個々の子どもの今後の方針をたてておきます。そして定期的に発達記録等に記載していき、学期ごとに見直しを図り、改善へ向けていきます。</p>	
<p>年に一回個人面談を行い、保護者の希望を尊重した計画をたてるようにしています。障害をもった子どもは健常児と一緒に変わりなく保育をしています。そして統合保育日誌をつけていき、その都度保育計画を見直していきます。色々な保育の活動の見直しや改善については、学期単位や行事終了時に行っています。</p>	
<p>子どもの情報に関する記録は、「発達記録」「保育経過記録」「個人面談記録」にて行っています。さらに職員会議やミーティングにおいて頻繁に話し合いを実施しています。申し送りや引継ぎにおいては、「伝達表」ノートを作成し、伝達漏れのないようにしています。</p>	

## サブカテゴリ5 サービスの実施

子どもの発達を促すための保育を行っている	A
午前は教育的な活動を中心にカリキュラムを立てています。一斉活動に偏るのではなく、一斉活動の前後や午後の時間には戸外遊びを中心に自由に遊べる時間を確保しています。統合保育により、障害のある子どもと一緒に過ごせるようにしています。個々の子どもの様子に合わせ、無理して一緒に過ごすのではなく、時にはお散歩をしたり、一人で落ち着ける場所に移動したりしてその子どもに合わせた配慮をしています。異年齢保育では、交流給食やバイキング給食をしたり、散歩や遠足で意識的に異年齢とかかわる機会を作っています。	
幼稚園と保育園の機能が一体的に提供されている	A
幼稚園機能・保育園機能を合同でクラス編成しており、統一のカリキュラムで保育を行っています。保護者の就労の有無にかかわらず、早期保育や預かり保育、延長保育を利用することができます。懇談会は幼稚園・保育園別々に行われるほかに、合同の懇談会も行っていきます。幼稚園利用・保育園利用の保護者の双方が交流できる機会を作っています。ただ、保護者同士まだお互いの状況が把握できにくい部分もあるようです。園として、幼稚園・保育園の保護者が双方にお互いの立場や状況、考え方を理解し合える取り組みをしていくことが望まれます。	
適切な教育環境を整えている	A
外部より講師を招いて、週1回体育遊びの時間を作っています。また、近隣の公園に月1～2回お散歩に出かける際、公園に來ている未就園児と一緒に遊んだり、紙芝居を見たりします。いろいろなお友だちとかかわれるよう配慮しています。食育のためのクッキング保育で使う食材の買い物やはがきを出しに行ったりするのを子どもたちと一緒にしています。地域社会と触れあう機会を作っています。練習帳を使い、文字、数などを学んでいます。今後は、日常の保育の中での計画的・継続的導入について職員間での検討が期待されます。	
栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している	A
食事の時にBGMとして音楽をかけたり、行事の時にテーブルクロスをする等して、食事の雰囲気作りに工夫をしています。また、バイキング給食や交流給食を行い、子どもの食べる意欲を引き出す工夫をしています。栄養士が各クラスを巡回し、子どもの食事の様子を観察しています。残食の様子と合わせて献立の参考にしています。また、適温給食を提供するため、保育の進み具合によって、調理室との連携を取るよう心がけています。野菜の栽培・収穫やクッキング保育を行い、子どもたちが食について関心を持てるよう食育に取り組んでいます。	
子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている	A
看護師が毎日勤務しており、各クラスを巡回して、子どもたちの健康状態の把握に努めています。内科健診、歯科検診、ぎょう虫検査などの結果は健康カードに記入し、保護者へも伝えられます。その際、予防接種の状況なども保護者へ再確認しています。感染症予防のため手洗い・うがいのポスターを子どもの洗面所に掲示して促しています。保健日よりにも季節ごとに流行ると予想される感染症の症状等を載せています。感染した子どもが出た場合には、病名、症状などの情報を提供しています。	
園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている	A
毎月の誕生会には保護者が一緒に参加できます。年間計画を立て、季節ごとに行事を取り入れています。運動会、夕涼み会、音楽発表会等保護者が参加できる行事やプール活動、クリスマス会等子どもたちが楽しむ活動を沢山計画しています。お昼寝は、眠れない子どもは静かに体を休めるようにしています。年長は9月から時間を短くし、運動会後からは就学に向けてお昼寝をなくすようにしています。ただ、保育時間の長い子どももいるので、個々の子どもの様子に合わせた対応をしています。	
施設と家庭との交流・連携を緊密に行っている	B
参観日を年に2回設けています。この他いつでも参観できるようですが、全保護者への周知が十分ではありません。子どもについて気になることがある場合等は相談すれば配慮しています。園だより、クラスだよりのほかに、ホームページの保護者専用ページで毎月の行事の写真を載せて、園の生活を家庭に紹介しています。ご意見箱を園内2か所に設置し、いつでも保護者からの相談に応じることができる体制を整えています。また、看護師、栄養士への質問にもいつでも応じることができるようになっていきます。	

虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている	A
<p>虐待防止の研修会に職員が参加しています。参加者は報告書を作成し、回覧して他の職員と情報の共有をしています。虐待の疑いのある子どもへの対応は、職員間で確認されています。また、保健福祉センターとは常に連携を取っており、必要な時にはいつでも対応できる体制を取っています。保護者とは、懇談会を通じて、各年齢の発達段階等を話し合い、育児について共通認識が持てるよう取り組んでいます。</p>	

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A
<p>園で行われる運動会、夕涼み会、給食会に地域の高齢者を招待しています。今後は、地域の自治会や高齢者との交流をさらに深めていきたいと考え、園長が近隣の家を積極的に訪問し相談を進めています。近隣の公園を利用して親子でウォークラリーをしたり、秋には焼き芋を予定しています。また、散歩の時に公園で出前保育(絵本の読み聞かせや紙芝居等)をしたり、クッキング保育の食材を子どもと一緒に買い物したりすることで、地域に触れ合う機会を作っています。</p>	

地域のニーズに対応した子育て支援事業を行っている	A
<p>子育て支援事業として未就園児の親子登園を実施しています。2、3歳児を対象に月に2～3回行いますが、外部からの講師による体育遊びを親子でできる日もあります。また、親子登園や園庭開放を行うことで、地域の未就園児の保護者の育児や教育に関する相談窓口にもなっています。子どもを遊ばせながら気軽な気持ちで相談できます。電話による子育て相談も随時受け付けています。2歳以上の子どもを対象に一時保育も実施しています。そのほか、毎月の誕生会に未就園児も参加できるという楽しい企画もあります。誕生月に希望者は誰でも参加できます。</p>	

小学校との連携を行っている	A
<p>園長が小学校を訪問し、小学校の教育内容について理解を深めています。また、年長児が小学校の校庭に散歩に出かけ、小学校の雰囲気を感じています。また、小学校の運動会にも参加します。3学期には小学校の校舎内を見学させてもらう予定になっています。1年を通して、小学校と連携しながら、年長児が就学するための環境作りをしています。そして、卒園児を園の運動会や夕涼み会に招いて、小学校生活の様子などを聞いて、卒園後の子どもたちの様子を知るように努めています。</p>	

### サブカテゴリー6 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

子どものプライバシー保護を徹底している	A
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している	A
障害児を受け入れるにあたり、保育内容の配慮を行っている	A

<p>子どもの転園や役所との連携等について、その子どもの情報のやりとりをする必要が生じたときは、保護者にどのような情報をやりとりするかということについてその都度同意をとるようにしています。また、入園の際にあらかじめ基本的な同意は得ておきます。子どもの尊厳については、プール遊びの際の目隠しや水着にはきかえる際のプライバシーの保護やおもらしをしたときの処理等子どものプライドや羞恥心を配慮するように心がけています。</p> <p>特に、子どもの心を傷つけるような言動はつつむように厳しく職員に指導しているとのことですが、保護者のアンケートのなかには、ごく一部ですが、わりと心ない言葉を使う職員がいるとのこと。たった一人の言動がこども園全体の印象を悪くしてしまいます。日ごろから職員会議で話しあっておくことが大切です。</p> <p>当施設には障害をもった子どもが在籍しています。専任担当がいますが、園内研修、園外研修を通じ、障害児保育の研修を受けた職員を通じ、全職員が学習し、また、話しあっています。そして統合保育の一環として、子どもたちの当番活動や係り活動にも他の子どもたちと同じように受け持ち積極的に活動できるように配慮しています。</p>
---

### サブカテゴリー7 こども園業務の標準化

手引書等を整備し、こども園業務の標準化を図るための取り組みをしている	B
サービスの向上をめざして、こども園の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	A
さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	A

<p>「職員の心得」「受け入れの心得」「安全マニュアル」「衛生マニュアル」等基本的なマニュアル類は常備されています。しかし、認定こども園として必要なマニュアル類はどのようなものが必要で、どんなふうに備えられていると全職員が使いやすいかといった点では、まだまだ不十分です。これは、認定こども園という新しいシステムにチャレンジしてまだ2年足らずですから当然といえば当然です。むしろ、今後時間をかけて簡便なマニュアル類の整備をしていくことを期待します。</p> <p>一人ひとりの子どもたちの状況を担当職員が把握し、種々の記録をしていき、学期ごとに点検して改善へむけていく仕組みは構築されています。また、できるだけ保護者の意向の収集を図って反映させていこうと努力していますが、ナーサリーコースとキンダーコースというそれぞれのコース特有の要望があり、それらの案件をどう解決していくかが今後の課題といえましょう。</p> <p>園内での園長や主任の巡回指導やアドバイスや園外研修等で職員の質の向上を図る努力はされているようですが、この新しい認定こども園というシステムのなかでは、幼稚園、保育園両方の知識を吸収するとともに融合させていかねばなりません。職員アンケートによりますと、職員たちはまだまだ質の向上については満足していないようです。現状に甘んじない職員の姿勢を、今後には是非生かしていくことを期待します。</p>
--



■ カテゴリー7 情報の保護・共有

サブカテゴリー1 情報の保護・共有に取り組んでいる

こども園が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	B

児童票は必要な職員が必要ときに活用できるように整理し、保管しています。保管場所については部外者が容易に取り出せないように工夫をしています。また、パソコンについてはアクセスできる人を限定しています。

個人情報保護規程があり、その姿勢を明らかにしています。この規程によって、遵守事項が明確になっていますが、個人情報の利用目的や開示請求があった場合の手順についてはもう少し具体化することを望みます。

個人情報の保護については、職員へは職員会議で伝達を行っています。実習生やボランティアに対しては遵守事項を事前に説明し、承諾を確認するしくみがあると良いでしょう。このことによって認識がさらに高まります。

## ■ カテゴリー8 カテゴリー1～7に関する活動成果

### サブカテゴリー1 前年度と比べ、こども園の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

前年度(比較が困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

A

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「安全管理」

安全対策や不審者対策については、開設当初から全職員が役割分担をしていますが、さらに今年度はより充実するように徹底してきています。また、不審者対策については、今年度、電子錠の設置をするともに、IDカードを作成して保護者一人ひとりに渡し、保育園機能の登降園の際に活用しています。さらに、地震等の自然災害に対する防災対策として、非常食品の備蓄をしています。そして、防災備蓄非常食品台帳に記入して継続チェックをしています。

### サブカテゴリー2 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

前年度(比較が困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

A

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

昨年は、認定こども園として新しく発足したせいか、職員同士のまとまりにやや欠けていました。今年度は、幼稚園機能、保育園機能のそれぞれのポジションについて職員同士が話し合い、保育内容について理解を深めてきています。認定こども園としての機能については、まだまだ十分に機能しているとはいいがたい状況ですが、職員同士が連絡を密にし、だんだんスムーズな運営になってきています。また、先輩の職員の若手の職員に対する指導もうまくなってきています。

### サブカテゴリー3 前年度と比べ、サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

前年度(比較が困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

A

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

昨年に比べて園庭開放や一時保育、また、地域への子育て支援について地域へのアプローチをしてきています。その活動の結果、利用者が徐々に増えてきています。また、地域の人との食事会や誕生会の地域の親子の参加呼びかけ等色々な催しものを開催して、関わりをもつようにしてきています。まだまだ不十分なので、今後も職員同士話し合っ、充実させていくことを確認しあっています。

### サブカテゴリー4 前年度と比べ、保護者の満足や意向の把握等の面で向上している

前年度(比較が困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している

A

- ・カテゴリー3:「保護者の意向や地域・事業環境などの把握と活用」

私立幼稚園協会の園長会や私立保育園の園長会に参加して情報を収集するように努めています。しかし、幼稚園や保育園では認定こども園についての認識が十分理解されていなかったため、こういった組織に参加するようになったのは、今年度からです。いずれにしても、地域の幼稚園、保育園の実態をできるだけ把握するように努め、認定こども園として、どのような活動をしていけばよいのか、また、地域の幼稚園や保育園とどのように協力しあっていけばよいのかについて継続研究していくことを望みます。